

日本ゼオン、合成香料増強設備竣工

2006年5月29日

日本ゼオン（社長 古河直純）は、5月29日水島工場（岡山県倉敷市）で合成香料・リーフアルコール製造設備の竣工式を行った。

今回、生産能力400トン／年の設備増強をおこなったもので、これによりリーフアルコールの生産能力は現有の1.5倍、1200トン／年となる。


リーフアルコールは「青葉アルコール」とも呼ばれ、グリーン系香料として、香水、シャンプー、石鹸などのほか、ジュース、キャンディー、アイスクリームなどの食品香料用途で幅広く使用されている。今回の設備増強は、近年、経済成長が著しい東アジアを中心に、「香り」に対する需要が急速に伸びてきており、この需要増大に応えるものである。

当社の化学品事業は、ナフサ分解によって得られたC5留分を原料とし、独自の合成技術から開発した合成香料、特殊溶剤、医薬中間体等の製品群からなり、当社が世界で唯一展開しているC5留分総合利用の観点から重要な位置を占めている。生産拠点としては水島工場およびゼオンケミカルズ米沢（山形県米沢市）の2拠点をもち、今年4月には、ゼオンケミカルズ米沢に化学品研究棟を竣工し、新製品開発についても注力している。

補足説明

当社化学品事業は、1980年代に合成香料市場に参入したことからスタートしている。その後、各種医薬中間体、特殊溶剤を加え、ファインケミカル事業として発展してきた。

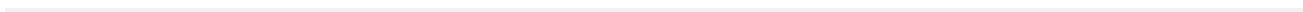
事業の中核であり香水、食品、石鹸、シャンプー等に使用される合成香料については、グリーン系およびジャスミン系香料を得意とし、特にグリーン系香料のなかでポピュラーである「リーフアルコール」に関しては世界トップシェアをもち、また、ジャスミン系でも汎用的に使用される「メチルジヒドロジャスモネート」では世界第二位グループに位置している。

 本件に関するお問い合わせ

日本ゼオン株式会社 CSR統括部門 広報室

Tel : 03-3216-2747

[▶ お問い合わせフォーム](#)



© ZEON CORPORATION. All rights reserved.